

を通して説明すると、いつもちゃんとやってきてくれました。6年生の姉は無愛想でしたが、彼女なりに私に精一杯協力してくれていたのです。

彼女たちは、母語のウルドゥー語が「少し読めるけれど、ほとんど書けない」という状態だったようです。私は、「無理をして日本語を覚えるよりも、母語を大切にしたい方が良いのかな」とも思い、姉とふたりでアラビア文字を練習したこともありましたが、私が教えるべきものではないだろうし、もとより教えることなどできません。けれど、私も彼女たちの国の言葉に興味を持ち、勉強してみることで、日本語を勉強している彼女たちの気持ちに少しでも近づけたら、という思いもありました。アラビア文字は右から書いてくる文字です。模様のように美しい文字ですが、何がどうなっているのかチンプンカンプンでした。この子たちもきっとこんなふうに苦労しながら日本語を勉強しているのだろうな、と思うと、姉の表情もなんとなくおだやかに見えてくるような……。

しかし、姉の卒業を目の前にしたある日、二人の急な帰国が決まりました。姉はかけ算もできないようになったし、妹もひらがなやカ

タカナを覚え、くり下がりのある引き算もできるようになってきたのに……。私は、「元気でね」と伝えるのがやっとでした。最終日前日の放課後、姉から電話がありました。「先生、宿題たくさんください。パキスタンに帰っても日本語を忘れたくないから」。日本を嫌いにならないでいてくれてよかった、思わず涙がこぼれてしまいました。二人に出会えたことは、私にとって本当に幸せなことでした。日本語を教えることも私の仕事ではあるけれど、もっと大切なのは、外国から来た子どもを理解し、一緒に添うことではないかと教えられた気がします。

壬生町の外国人児童生徒教育拠点校は睦小だけです。安塚小や羽生田小にも外国人の児童がいて、本校に通級という形をとっていますが、保護者が送迎できる家庭ばかりではないので、私が出向く場合もあります。勤務校外の子ども達は、週に一度、1～2時間しか見てあげられないのがもどかしいです。また、町内の中学校には日本語教室が無く、進学した後のことも心配です。こんな私にできることはとても少ないけれど、ゼロではないことを信じて、明日も頑張っていこうと思います。

シリーズ:学生ボランティア派遣体験記12

母語も日本語も自分の強みになるように！

宇都宮大学国際学部国際文化学科3年 藤 巻 優 美

昨年の5月から真岡市立真岡小学校に週1回程のペースで通い、タイ出身の小学6年生の男子児童に、日本語学習の支援をしています。

彼はよく指導中にお気に入りの文房具の話をしてくれたり、得意の絵を描いて見せてくれます。ボランティアを始めたばかりのころ

は指導方法がよくわからず、指導内容から話がそれるたびに戸惑っていましたが、「会話を通して日本語指導をしよう」と考えなおし、彼が楽しいと感じる時間を日本語指導の時間に充てられるようになりました。

私は先生たちのような完璧な指導はできませ

んが、タイ語を交えた会話をすることで、私にしかできない指導をしています。普段は家以外で話す機会がなかなか無いタイ語を指導中に使うと、彼は、忘れかけているタイ語を思い出しながら、私が知らない単語を楽しげに自信を持って教えてくれます。

今の私にできること、やるべきことは、少しでも「楽しい!」と感じてもらえる指導をすることだと思っています。それにより日本語への意識を少しでもプラスなものにすることで、勉

強に対する姿勢もさらに良くなるのではないかなと思うからです。

また、日本語学習だけに一生懸命になるのではなく、母語であるタイ語も大切にほしいです。子供は、大人に比べるとまだまだ多くの可能性を持っています。その可能性を、言語をうまく操れないという理由で狭めず、ぜひ、二つの言語が使えることを自分の強みにして、さらに可能性を広げていってほしいと思います。

ถั่วดี นะ

真岡市立真岡小学校教諭 村上 敬子

突然ですが、タイトルの文字、何語で何と書かれているでしょう。お分かりになる方は、学習経験や興味関心がおありの方かと思います。タイ語で「こんにちは。」(女性形)と書かれています。

4年生で来日するまでこのような文字で読み書きし、生活していた現在6年生のNさん。初めてひらがな、漢字等を見たとき、そして、それらを使って生活し学習しなければならなかったときの気持ちは、私たちが想像する以上のことだったと思います。本校には外国籍を有する児童は40名余りいますが、タイ国籍はNさんのみです。明るい性格で友だちとも積極的に交わり、寂しそうな素振りも見せずに日本語もみるみるうちに上達したNさんですが、自分の国に興味・関心があり、タイ語を話せる藤巻優美さんに出会ったときのうれしさ、心強さも計り知れなかったことでしょう。初日のNさん



の表情は今でも鮮明に思い出されます。藤巻さんと過ごした時間は、Nさんの小学校生活のすばらしい思い出になったことと思います。遠路お越しいただき何のお礼もできずに恐縮している私たちに「とてもよい経験をさせていただきました」という、藤巻さんの言葉と笑顔には頭が下がる思いです。このようなボランティア支援をいただきまして本当にありがとうございます。